



(株) 日本理化学工業をご存知ですか？



日本理化学工業株式会社は、昭和12年に設立されたチョーク市場のトップメーカーです。神奈川県川崎市と北海道美唄市に工場があります。93名の社員のおよそ約70%が知的障害のある社員だそうです。

先日、同社の見学会に行ってきました。現社長の大山隆久氏の案内で、チョーク等の商品の製造工程を見ることができました。



チョークの原材料の成型工程について説明する大山社長（中央）



工場内では、たくさんの視覚的な手がかりが工夫され活用されています。

同社が、知的障害者多数雇用を目指すきっかけになったのは、先代の社長大山泰弘氏が禅寺の住職から言われた言葉でした。それは――

人間の究極の幸せは、

『愛されること、ほめられること、役に立つこと、必要とされること』

障害があるからといって福祉施設で大事に面倒を見てもらうことが幸せではなく、働いて役に立つ会社こそが人間を幸せにすると教わったのだそうです。

会社は一人一人が役に立って幸せになる皆働社会の実現を目指しておられます。各工程では、リーダーを中心として職員（会社では従業員とは呼ばないそうです。）が声をかけ合い、ワンチームとなって働いておられます。その姿を、温かくも時には厳しく、経営者の眼差しで見守る大山社長。

会社の理念と共に、全職員が安心・安全に意欲的に働くことを願って工夫されている多くの支援を、私たちの学校に重ねてみたいと思います。

大山隆久氏には、今秋11月に開催する『第2回富山県インクルーシブ教育フォーラム』でご講演をいただく予定です。

<引用・参考>

- 『重度知的障がい者に導かれた人間尊重の皆働社会を目指して』
(日本理化学工業株式会社見学会配付資料、会長 大山泰弘氏)